



リーディング・ プロジェクト



リーディング・プロジェクト（重点方針）

将来ビジョン

ひと・まち・ときをつなぐ

絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津

リーディング・プロジェクト（重点方針）の位置付けと方向性

第6次草津市総合計画の将来ビジョンである「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津」では、人と人、人から地域、まちへと“つながり”が広がることで生まれる“絆”をつむぐことで、草津市が、ときを重ねても、誰からも愛される“ふるさと”となり、また、住む人、訪れる人、誰もが“健幸”になれるまちを市民とともに創造していくことを目指しています。

第1期基本計画では、将来ビジョンの実現に向けて、草津市のまちづくりを先導・けん引する4つのリーディング・プロジェクトを重点方針として位置付け、分野横断的な施策展開を進めました。

将来ビジョンの達成に向けて、これまでの取組をさらに進めていくことが有効と考えることから、第2期基本計画においても、第1期基本計画の4つのリーディング・プロジェクトを継承し、将来ビジョンの実現に向けて、草津市のまちづくりを先導・けん引する重点方針として、分野横断的な施策展開を図ります。また、新たに「DX推進プロジェクト」を5つ目のリーディング・プロジェクトとし、すべての分野を下支えする視点とします。

リーディング・プロジェクトの推進にあたっては、第2期基本計画期間中は、統一テーマとして展開するため、予算編成方針等に一貫した方向性を持たせるものとし、関連する施策・事業については、毎年実施する評価の中で、課題の見直しとさらなる推進に向けた改善を図っていきます。

絆をつむぐ ふるさと

未来を担うこども 育成プロジェクト

全国的に少子化が進行しており、対策が必要です。また、こどもや若者は一人ひとりが大切な存在であり、すべてのこどもたちが自分らしく幸せを感じながら成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていくことがとても重要です。

少子化や核家族化、地域とのつながりの希薄化や高齢出産の増加等により、孤立感や育児不安等を抱く妊婦・子育て家庭も増加しており、子育て家庭の抱える課題も多岐に渡っているなど、子育て支援に関するニーズは一層高まっています。また、現代は将来の予測が困難な時代であり、これから生きるこどもたちには、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく力が求められています。

これらのことから、地域でこどもを守り育てるまちづくりの推進、子育て支援の充実や本市の強みを生かした教育など、こどもの豊かな育ちと学びを確かなものとしながら、生涯にわたって必要な生きる力の基礎を培い、心豊かでたくましく生きるこどもを育成し、こども・若者の声や思いを聞きながら、ともに、未来に向けて健幸を創造するまちをつくります。



地域の支え合い 推進プロジェクト

コロナ禍を経た価値観の多様化等により、コミュニティの希薄化が一層深刻となっています。人や地域とのつながりが無い「望まない孤独」や「社会的孤立」は、心身の健康面への影響が生じるリスクが高くなることから、人と人がつながりを持つことが重要です。コミュニティの活性化と発展を図り、地域における支え合いの基盤・つながりを再構築することで、こどもから高齢者まで、また、障害者や外国人、生活に困難を抱える人など、誰もが役割を持ち、時に支え合うことで孤立せずにその人らしい生活を送ることができる社会の実現が求められています。

また併せて、こうしたすべての人が一人ひとり違った個性や能力を持つ個人として尊重され、自分らしく生きることができ、能力を発揮して参画・活躍できる社会の実現に向けた取組を推進する必要があります。

これらのことから、地域住民が地域課題を「我が事」と捉え、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながるなど、お互いを大切にし、支え合い、絆をつむぎながら、誰もがいつまでも元気に活躍できる健幸を創造するまちをつくります。



D X 推 進

今なお人口増加傾向にある本市においても、既に超高齢社会を迎えており、近い将来には人口減中、将来ビジョンの実現に向けて、上記の4つのリーディング・プロジェクトをはじめとする総合計画のこのことから、すべての分野において、デジタル化を阻害している規制・制度の見直しや、デジタルサービスの提供につなげ、すべての人が利便性と快適性を享受しながら健幸を創造するまちを目指す

健幸創造都市 草津

にぎわい・再生 プロジェクト

市全体では、人口増加傾向にあります
が、一部の郊外部においては、すでに人口
減少が進んでいます。また、まちなか*にお
いても、将来的な人口減少により、にぎわ
いや魅力の低下が懸念されます。こうした
中、各地域の状況や課題に応じた取組が
求められています。

このことから、まちなかでは、にぎわい
と魅力にあふれるまちづくりを進めるとと
もに、郊外部では、地域の産業や資源等
を生かした取組を推進するなど、地域らし
さを大切にしたまちづくりを進めます。ま
た、多様で魅力ある企業の集積を促進す
ることで、若者の市外への流出を防ぎ、市
外からの流入増加を図ります。併せて、道
路ネットワークの充実を図るとともに、ま
ち全体に公共交通ネットワークを形成し、
市内の交通渋滞の緩和を図るなど、まち
の魅力を向上させ、市内外から人が集い、
行き交い、将来にわたり、利便性が高く快
適に暮らし続けられる健幸を創造するま
ちをつくります。



プロジェクト

少局面を迎え、経営資源（人・物・資金・情報・時間）が大きく制約されると想定されます。そのような取組を効果的に推進するためには、DX*（デジタル・トランスフォーメーション）の推進が重要です。技術やデータの活用を図ります。そのうえで、市民の利便性向上や業務効率化を図り、質の高い行政します。

暮らしの安全・安心 向上プロジェクト

地球温暖化に伴う記録的な猛暑や豪雨
災害、大規模地震など、年々災害が激甚化・
頻発化し、また、感染症の世界的大流行に
より生活様式が一変するなど、これまでに
経験したことのない事態が発生しています。
また、犯罪率や交通事故件数も県内で高い
水準となっているなど、市民の暮らしの安全
と安心をより強固に守る必要があります。

また、2050年カーボン・ニュートラル*
の実現に向けて、地方自治体に期待される
役割が大きくなっています。脱炭素・資源
循環型社会の構築に向けた継続的な取組
など、豊かな自然を守り、次の世代により
良い環境を引き継ぐための取組を進める
ことが重要です。

これらのことから、「強さ」と「しなやか
さ」を備えた災害等に強いまちづくりを進
めます。また、自らの地域は自らで守ると
いう意識の醸成や、誰もが安全で快適に
生活でき、かつ環境への負荷が少なく、持
続的に発展することができる地域環境文
化の醸成を図るなど、市民・行政・関係団
体等が一体となった取組を進めることで、
暮らしの安全と安心を守り、健幸を創造す
るまちをつくります。



